

Plan

Do

Check

Action

	プラン(3月)	プランの改訂(4月・9月)	プランの評価・改善(1月)
育小 推中 進一 地貫 区へ 取組 に連 お携 ける 教	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業参観・研究協議会等、学力調査の結果を基にした教員相互の交流を深めることで、9年間を見通した学力向上や生活習慣の確立に向けた情報交換がしやすい環境をつくる。</li> <li>○中学校生徒会と6年生児童との交流等、児童・生徒間の交流の機会を増やすことで、児童・生徒の自治的活動の力を高める。</li> <li>○小学校連合運動会を中学校で行う等、児童と中学校教員の交流を通して、児童に中学校生活への期待と希望をもたせる取組を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業参観・研究協議会等、教員相互の交流を深めることで、9年間を見通した学力向上や生活習慣の確立に向けた情報交換がしやすい環境をつくる。</li> <li>○2月7日に予定している中学校と6年生児童との交流等、児童・生徒間の交流の機会を増やすことで、児童に中学校生活への期待と希望をもたせる取組を推進する。交流内容としては、児童の作品展見学、児童への中学校の概要説明・質疑応答などを検討中である。</li> <li>○9月20日に中学校で予定されている小学校連合運動会を中学校で行う等、児童と中学校教員の交流を通して、児童に中学校生活への期待と希望をもたせる取組を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年2回の授業参観・研究協議会などで各校の現状や課題などの情報交換を行い、本校の研究発表会へも多数の参加があり、特に学力向上に向けた研修を深めることができた。来年度は研修会などの結果を成果を冊子にまとめている。</li> <li>○初めて実施した6年生の作品展見学は、熱心に見学する児童が多く、目的の成果をあげた。来年度は、関心の高い部活動説明、見学などを取り入れて、さらに中学校の情報を発信して、中学校生活へ安心して入学できる環境づくりを行う。</li> </ul>
国 語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報機器等を活用しながら資料から適切な情報を読み取り、自分の言葉で表現をする力を身に付けさせる。</li> <li>○根拠を明確にして自分の考えを具体的に書くこと、資料から適切な情報を得て、伝えたい事柄が明確に伝わるように書くことを身に付けさせる。</li> <li>○グループ学習やペアワークを取り入れ、単元を貫く言語活動をさせる。</li> <li>○漢字練習帳やプリントを用いて、基礎・基本を定着させる。</li> <li>○古典芸能にふれる機会を作り、伝統的文化への理解を深めさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○伝えたい事柄が伝えられるように、より多くの語彙や表現を増やすために毎授業で辞書の活用を習慣化する。</li> <li>○日常の授業で小テストの実施や漢字テキストの活用回数を増やし、基本的な知識を定着させる。</li> <li>○単元ごとに初発の感想や鑑賞文、説明文、筆者の主張に対する意見文などを書く場面を複数回設定し、自分の考えや意見を文章にまとめられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○分からない漢字を辞書で引いて確認することが習慣化されてきている。引き続き辞書を持参させ、自ら学ぶ姿勢を育てていく。</li> <li>○継続的な基礎知識の学習に取り組ませることができたが、生徒の意欲によって点数の差がはつきりとしてしまう結果になった。漢字が苦手な生徒でも意欲的に取り組めるようなスモールステップの小テストを作成する。</li> <li>○3行以上の文章を書くことは定着し、自分の考えや意見を文章にかくことはできるようになった。しかし構成や内容、誤字の面などで目標に達していない生徒も多く、個別の指導に取り組んでいく。</li> </ul>
数 学 （ 算	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎・基本の定着を目指し、既習事項も含め丁寧に指導していく。</li> <li>○グループ学習・ペア学習を多く取り入れ、言語活動をさせる</li> <li>○2、3年の発展クラスでは、応用問題を扱うことで「数学的見方・考え方」を身に付けさせる。</li> <li>○長期休業中の宿題として計算練習をおこなわせ、休業明けテストをおこない、合格するまで取り組ませることで基礎学力の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○引き続き基礎・基本の定着を目指し、既習事項の確認から始めて、教科書の間を一人で解くことができるように指導していく。基本的な問題に絞った試験を実施し、東京ベーシックドリルを活用するなどして基礎学力定着を図る。</li> <li>○グループ学習では言語活動を通して、学び合いを意識させ、学習効果を高める。</li> <li>○少人数授業の発展クラスではさらに「数学的な見方や考え方」を身に付けさせるために発展的な問題を扱う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎学力定着を目指し、教科書の基本問題を中心に丁寧に指導できた。しかし、東京ベーシックドリルをまだ活用できていないので、来年度から苦手な生徒の補習などに活用していく。</li> <li>○グループ学習では、お互いに「学び合い」を行い、言葉を使って人に伝える表現力を身に付けさせることができた。</li> <li>○少人数発展クラスでは発展的な問題を扱うことで「数学的な見方や考え方」を身に付けさせるとともに、意欲も高めることができた。</li> </ul>
理 科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎の定着。長期休業中に課題を出す。</li> <li>○基礎学力を利用して実験結果の考察などを行い、思考・表現力を伸ばす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○4人1組の実験班で、結果に対する話し合いの活動と、各班の考察を発表する時間を取り入れることで、生徒が自身の考えをまとめ、表現する力を養う。</li> <li>○実験結果に対する考察を、ワークシートを利用することで行わせ、思考力・表現力を身に付けさせる。</li> <li>○単元末問題として、発展課題を提示する。生徒に既習事項の知識を活用して課題に取り組ませることで思考力を育成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ワークシートを利用し、実験結果に対して考察を行った。化学の実験で言えば、発生した気体が何であるのか、その気体の特徴や反応させた物質から考察する。このような考察を行った結果、観測別評価から80%の生徒が思考力・表現力が身に付けることができていた。</li> <li>○しかしまだ全員が身に付いているわけではない。実験内容の工夫や考察・設問の改善をしていく。</li> </ul>
社 会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○指導計画に既習事項の定着や復習のための時間をあらかじめ組み込み、より計画的に実施する。</li> <li>○既習の知識を活用して問題解決を行う時間を定期的に設定することで、知識の定着をはかる。</li> <li>○定期試験問題において、「基礎問題」と「発展問題」を明確化することで、生徒の実力の自己評価を促し、学習目標を立てやすくする。</li> <li>○話し合いや発表、レポートなどで、知識の活用場面を設定する。</li> <li>○学期ごとのアンケートの実施を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○定期考査や日常の授業にも都立高校入試のような複数の資料が提示され、長文の文章題問題を取り入れ、資料の活用方法などを指導し、資料活用能力を向上させる。</li> <li>○定期考査の記述問題やレポート課題で添削指導を実施し文章力や表現力の向上につなげる。</li> <li>○定期試験よりも広範囲の復習テストを授業の一部や夏季休業前の時期に実施すると同時に、広い視野で既習知識を活用できる話し合い活動や小論文作成などの演習を通じて知識の長期定着をはかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○2学年では、毎定期考査に都立高校入試のような複数の資料が提示された長文の文章題を出題した結果都学力調査の結果が上昇したので、問題数を増やすなど続けていく。3学年では、各定期試験後に1時間ずつ、計4時間問題演習を行った結果、苦手分野や理解が不十分な分野が明らかになり、対策を立てやすくなった。今後は回数を増やしていく。</li> <li>○2学年では、定期考査の解答や提出物を通じて添削を実施した。3学年では、各単元につき1回レポート課題を実施し添削指導も行った結果、文章能力が向上した。スモールステップを設定し、苦手な生徒への対応が課題である。</li> <li>○2学年では、定期試験時に定期試験よりも広範囲の復習テストを取り入れた結果、既習事項を定着させることができた。</li> </ul>
英 語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の授業内の発話量を増やすために、ペア・グループワークを多く取り入れていく。</li> <li>○また、英語を発話することに抵抗をなくせるように、内容の工夫をしていく。多くの生徒が伝えられるとこの達成感を得られ、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」を育て、積極的に英語を口にできるようにする。</li> <li>○英語の「聞き取り」「読み取り」をするときに、生徒自身に考えさせ、分かったことを共有する時間を設けていく授業展開をし、学習内容の理解を深め定着を図っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○シンプルな英語の例文をたくさん提示し、授業で教員がターゲットセンテンスを使って話す場面を増やすなどしてインプットの機会を多く与える。生徒はそれらの表現を反復練習してターゲットセンテンスを使えるようにし、自分の意見や感想を当てはめて表現する能力を養う活動を多く取り入れる。</li> <li>○普段よく使う会話表現に多く触れ、Yes, No, For two daysなどのシンプルな英文で答えることで自然な受け答えができるよう、ここでも反復練習を行う。これらの継続で生徒が達成感を得られ、積極的な発話ができるよう取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎時、ペア、グループワークを取り入れたことで、分かったことを共有したり、生徒同士で協力する姿勢が身に付いた。生徒同士で英語を使ってコミュニケーションをはかる機会を作っていくことで学習内容の理解を深め、定着に結び付けることにつながっていた。</li> <li>○ターゲットセンテンスをインプットする機会を増やし、身近な表現にすることができた。一方でアウトプットの機会が不十分で自己表現になかなか反映されなかったことが反省点にある。覚えた表現を自分の考えや意見として言い換えて表現する機会をもっと増やしていきたい。</li> </ul>

	プラン(3月)	プランの改訂(4月・9月)	プランの評価・改善(1月)
音楽	<p>○ベア、グループ、全体の活動など様々な学習形態をとり、授業の展開を工夫することで意欲的に学習に参加できるようにする。</p> <p>○個人達成カードを活用し、個々の課題を設定することで生徒が自主的に課題に取り組む姿勢を育み、表現の能力を上げていく。</p> <p>○歌唱表現に於いては、声を出しやすいよう身体ほぐし体操を行い、のびのびと表現できる環境を作ることでより良い表現力を身に付ける。</p>	<p>○ベアやグループ活動の中では意見交換がしやすく、友達表現の中から気付くことも多くあるため、そのような機会を増やしていく。</p> <p>○個々の課題を持つことで一時間の授業をより意欲的に、自主的に取り組む姿勢につなげていく。また、音楽の諸要素の働きを理解しそれを表現につなげていく。</p> <p>○抵抗なく歌える楽しさを感じるために、体の力を抜く準備体操をしたり、声を出しやすい発声練習をし、のびのびと表現できる環境を作っていく。</p>	<p>○器楽の活動でもベア学習をすることで、お互いの演奏を聴きあい、自分に振り返ることができた。</p> <p>○個人カードの活用ができなかったため、来年は活用したい。音楽の諸要素を意識することで表現の幅が広がった。</p> <p>○表現活動のきっかけとして、声を出しやすいような発声練習や体をほぐす体操は効果的であった。</p>
美術(図工)	<p>○実用性のある題材を進めるとともに色彩や視覚効果等の絵画表現の基礎的な知識を深め、対象の見方、見え方の原理に気づかせることで、絵に対する苦手意識を弱めていく。</p>	<p>○以下の活動を通して、生徒の観察力と発想力を育成する。</p> <p>・発想の段階で細かく指導し、机間指導等でそのつど可能であるか、なぜ不可能であるのかを、教えていく。</p> <p>・過去の作品を掲示することや、お互いの作品を認め評価し合えるような雰囲気作りを心がけていき、制作に興味や関心がもてるとともに、自分の作品に愛着が持てる諦めてしまうことがないよう、課題や材料の選択と設定に工夫をする。</p> <p>・絵画を描く上での基礎的な知識を身につけることで、絵画に対する苦手意識を取り除き、興味を持ちやすい課題設定を工夫する。観察力と発想力を伸ばす。</p>	<p>○製作過程の流れが良くわかるように板書を工夫しプリントも記つたため、先を見通した作業を意識できるようになってきた。</p> <p>○1学年には色彩についての知識などについて顕微鏡などを利用して印象付け、ワークやプリントで繰り返し練習させることで効率的に定着を図った。</p> <p>○2・3学年には資料や書籍、PO画像等できるだけ豊富に用意して、対象を捉えて描く意味を理解できるよう助言指導した。徐々に絵に対する苦手意識も薄まってきているように感じる。</p> <p>○教室内の掲示物等を増やし、発想や構想を喚起しやすい工夫した。</p>
技術・家庭	<p>[家庭]</p> <p>○実習において、ベアやグループで認め合いほめ合う活動を入れて、自己肯定感や有能感をもたせていく。学習意欲向上につなげたい。</p> <p>○学習への動機づけを工夫し、実践的・体験的学習を今以上に増やす。</p> <p>[技術]</p> <p>○グループ学習の効率性を高められる教材の精選を実践していく。</p> <p>○日常生活において、ものづくりやエネルギー変換への意識が高まる課題を与える。</p>	<p>[家庭]</p> <p>○生活に必要な技能を身に付けさせるため、技能面で苦労して取り組んでいることほど互いにほめ合える機会を取り入れる。学期初めに長期休みの実習課題を見せ合ったり、授業では実習中の意見交換を行ったりして、自己肯定感を高め学習意欲向上につなげる。</p> <p>[技術]</p> <p>○生物育成への関心と実践と経験を身につけさせるために、教材育成の準備と管理をベア及び、グループで取り組ませる。</p> <p>○身の周り「つくられたもの」に興味・関心に向け、ものづくりに対する意欲的な態度を身につけさせるため、夏休みの課題として木材及び金属製品や電気製品調べに取り組ませる。</p>	<p>[家庭]</p> <p>○長期休みの実習課題を見せ合うと、互いに感心した様子で見入っていた。自己肯定感の高まりや他者理解につながれたと感じている。学期内の課題のうち、被服実習や調理実習では、時数の関係で意見交換のみにとどまった。来年度は認め合いほめ合う機会を取り入れていきたい。</p> <p>[技術]</p> <p>○グループ学習により作業進捗の差を補うことができた。</p> <p>○LED照明など、日常生活で具体的な物を示すことにより、エネルギー変換への関心を高めることができた。また、生活の中で実際に使用されているものは、実物や映像で今後も示していきたい。</p> <p>○生物育成は時期により生育が左右されるのでその点を中心に教材の準備、管理を行うことができた。</p>
体育健	<p>○個人での学習に加えベアやグループによる学習を行うことで、自分の課題を確認する場面を増やし、技能と思考力・判断力を育む。</p> <p>○授業で筋力トレーニングを準備運動として取り入れることで、基礎的な体力を向上させる。また、行う単元に合わせた種目を取り入れるようにする。</p>	<p>○運動のイメージが持てない生徒のために、運動の得意な生徒の模範動作を多く見せることで、個人の技能向上を図る。</p> <p>○学習カードを活用することで個人技能の変化を感じられるようにし、技能向上の工夫する力を育む。</p>	<p>○運動の得意な生徒の模範動作を観察することは(動作のコツなどの説明も含む)、動作のイメージが持てない生徒にとって効果的であった。また、模範となった生徒においては、自信につながり、互いに学び合う授業となった。</p> <p>○学習カードを活用することで、技能の向上を確認することができ、さらに授業への取り組みが意欲的になった。</p> <p>○年間を通して行った筋力トレーニングは効果にばらつきがみられた。次年度は筋力トレーニングの種目、方法の検討を行いたい。</p>
(総合・生活)	<p>○自ら課題を発見し見通しをもって創造的に取り組む力を育てるため、生徒による話し合いの活動を増やし、思考力・判断力・表現力を育む。</p> <p>○地域の施設活用や人材との関わりを通して、他者との関わり方やものの考え方等を身に付け、自己の生き方を考える力を育てる。</p> <p>○個人での調査・研究活動を今年度以上に取り入れる。</p>	<p>○企業の出張授業を活用し、自己の生き方についてより具体的にイメージをもって考える機会を設ける。これにより、キャリアプランニング能力の育成をはかる。</p> <p>○自ら課題を見付けられる力を身に付けさせるため、調べ学習の際にはテーマ設定の段階から生徒が主体的に取り組める授業展開を計画する。</p> <p>○修学旅行では、先を予測し見通しをもって取り組む課題解決の力をつけさせるため、コースや事前学習の計画段階での話し合い活動を多く取り入れる。</p>	<p>○修学旅行で先を見通し計画を意識させながら準備をしたことで、教員からの指示を待たずに自主的に行動する生徒が増えた。計画性、自主性を年間を通し、各活動を横断して育成することが課題である。</p> <p>○企業の出張授業を実施したことで、より具体的に自己の生き方について考える機会となった。自ら課題を発見し、探究学習に取り組む力を育むため、班活動の場面でテーマの提示の有無や方法を検討する必要がある。</p>
道徳	<p>○「わたしたちの道徳」、「心みつめて」、「明日をひらく」や各種の視聴覚教材を有効に活用し、年間指導計画に沿って確実に道徳授業を実施し、他を思いやり、いじめ・いやがらせを許さない心を育む。</p> <p>○生徒の生活に生かす内容するために、各教科や学級経営と関連をもたせた指導を展開し、よりよく生きるための資質を育む。</p> <p>○家に持ち帰った道徳の教材などを家庭で活用する機会を設定するなどして、地域・家庭との連携を図る。</p>	<p>○他を思いやり、いじめ・いやがらせを許さない心を育むために以下の活動に取り組む</p> <p>・3年間を通じて「わたしたちの道徳」の章立てを基本にすめていくように統一する。</p> <p>・家庭で、「わたしたちの道徳」をもとに家族とともに道徳に取り組む課題を出す。</p> <p>・読み物だけでなく、同じ題材を扱った他の映像資料を使うことで、読むことが苦手な生徒でも題材への理解を深められるようにする</p>	<p>○12月に行った学校評価で、「道徳の授業が生徒の心の成長に役立っている」と回答した割合が、生徒、保護者共に75%を超えている。このことから、本年の取組は一定の成果をあげることができたと考えられる。</p> <p>○来年度、「特別の教科 道徳」を校内研修の課題として取り組むことで、指導方法や指導内容のさらなる改善に取り組む。</p>
特活	<p>○他校の生徒会を通じて得た情報をもとに、新年度に向けた生徒会の活動を検討し、実践することを通じて、生徒の自主性を育む。</p> <p>○学年、学級等の集団活動を通して、生徒が果たす役割を明確にし、集団の一員としての自覚を高め、責任感や実行力を育てる。</p>	<p>○町田市選挙管理委員会から、本物の投票用具を借りて生徒会役員選挙を実施し本物に触れる機会をつくることと、自治力を身に付け創造的な学校生活を送るようにする。</p> <p>○修学旅行や体育祭の準備や実施の場面において、個性の伸長を図り、また集団での望ましい人間関係を形成するために、お互いの活躍を認め合う「いいとこ探し」などを実施する。特に3年生は体育祭の応援活動において、下級生の指導を通し、最上級生としての自覚と態度を育む。</p>	<p>○生徒会役員選挙では本物の機材を借りて選挙を行うことで、選挙への意識を高めることができた。</p> <p>○中学校生徒会サミットに参加し、東京都内の各学校で取り組まれている生徒会活動の情報共有ができたことで、生徒会活動の見直しや新しいアイデアを得ることができた。</p> <p>○生徒会活動の新しい試みを話し合う機会を多く持ち、活発な意見交換ができるようになった。</p> <p>○「いいとこ探し」や体育祭の応援活動などは望ましい集団生活の育成に効果があったので、来年度も実施する。</p>

	プラン(3月)	プランの改訂(4月・9月)	プランの評価・改善(1月)
家庭学習の充実を図るための工夫	<p>○家庭での学習方法の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;理科&gt; 実験の考察プリントを家庭で完成させ、翌日に提出させることで思考力・表現力の育成を図る。</li> <li>&lt;社会&gt; 新聞などの購読を促し、時事問題を知ることで社会への関心を高める指導</li> </ul> <p>○宿題の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;技術家庭&gt; 長期休業中に家庭でしかできない体験を宿題とすることで、家庭学習との連携を図る。</li> </ul> <p>○日記(連絡帳)の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>担任が、提出された日記帳に学習の悩みなどについてコメントを書くことで学習意欲の向上を図る。</li> </ul> <p>○「学習の手引き」発行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習の方法を生徒、保護者に示す。</li> </ul>		